



血液免疫病学ニュースレター

Vol. 36 | 2022年6月

【発行元】 東北大学病院 血液内科・リウマチ膠原病内科

Address: 〒980-8574 仙台市青葉区星陵町1-1

Tel: 022-717-7165 / Fax: 022-717-7497

Homepage: <http://www.rh.med.tohoku.ac.jp/>

巻頭言

新年度になっても Covid-19 感染症が終息せず、病院でも複数の部署で感染者や濃厚接触者が出ていますが、重症化リスクが低くなったせいか、当初の重い雰囲気はなくなりつつあるような気がします。学会もハイブリッド形式をとっていますが、現地参加者が増えてきて Covid-19 後の生活が見えてきたように思います。もう少しですね。

新年度になり、血液内科、リウマチ膠原病内科ともに多くの新人が入ってきました。病棟は活気があり、とても賑やかです。私自身が年を取ったせいか、とてもまぶしく、そしてとてもうれしく感じます。本号は新人の紹介記事が中心となっていますので、私と喜びを共有していただくとともに、是非、顔を覚えていただき、講演会、研究会、学会でお声がけいただければ幸いです。

もう一つ、本号では大事なご報告があります。この3月に分野の再編があり、血液免疫病学/腎・高血圧・内分泌学が血液内科学/腎・膠原病・内分泌学となりました。腫瘍と非腫瘍、領域・疾患の近接性が再編の理由です。ただ、病院の診療科としては、血液内科、リウマチ膠原病内科、腎・高血圧・内分泌科という構成になっており、リウマチ膠原病内科は独立した診療科として他の内科系診療科と肩を並べる診療科となっています。医局の体制としては分野ではなく診療科を優先し、リウマチ膠原病内科と血液内科が一

緒にいる形、すなわちこれまでと全く同じ形を維持しています。個人的には今後分野としてもリウマチ膠原病内科が独立し、病院においても研究科においてもリウマチ膠原病内科学と血液内科学がそろい踏みするのが望ましいと考えています。そのためには診療だけでなく研究の面でも多くの業績を出し存在感と領域の重要性をアピールしていく必要があります。この目標に向け、医局員とともども、より一層励んでいきたいと思っておりますので、今後ともよろしくご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

(張替 秀郎)

【目次】

巻頭言	…	1
新医局長挨拶	…	2
新入局員挨拶	…	3-4
学会報告	…	5-6
人事異動	…	7
業績紹介	…	8



新医局長挨拶

2022年4月より血液内科／リウマチ膠原病内科医局長を拝命いたしました福原規子と申します。先々代・先代医局長の藤井先生や横山先生にご指導いただきながら、医局長が診療や研究に打ち込める環境づくりを目指し、精一杯努力させていただく所存です。

僭越ながら、この場をお借りして自己紹介をさせていただきます。私は仙台に生まれ、父の転勤などもあり静岡県立富士高校を卒業後に仙台に戻ってきました。平成11年に東北大学医学部を卒業後、山形市立病院済生館で2年間研修し、国立がん研究センター東病院で3年間レジデント研修後に入局させていただきました。大学院ではリンパ腫に関わる遺伝子解析にて学位取得し、以後は大学病院での診療を中心に現在に至ります。

今年は多くの新入局員を迎えることができ、嬉しいことに6号館5階の医局長大部屋は満員御礼状態です(私もそろそろ小部屋に追い出されそうな圧を感じます)。病棟も勢いのある若手が勢揃いして次々仕事をこなしていくので、例年以上に活気溢れる新年度を迎えることができました。

新型コロナウイルス感染も今後どのように収束するのかいまだ不透明な状態ではありますが、総回診や学生実習、診療カンファランスなども工夫を重ねながら体制を維持しております。私どもが診ている患者さんは、他の診療科に比べ感

染に関して細心の注意が必要なことが多いと考えられ、現場の先生方にとっては胃の痛い日々が続いていることと存じます。先日も度重なる治療による免疫不全状態にCOVID-19感染を併発された方がおり、呼吸器内科医からこのような経過はいままで診たことがないと言われながらも丁寧に診療いただき、コロナ診療の難しさを実感した次第です。

教育面では、秋保セミナーがコロナ禍にて中止を余儀なくされていますが、WEB医局説明会(今年は6月13日実施)や当科作成の「血液内科入門」の配布など継続しております。個人的には、両科ともに面倒見の良い中堅が大学・関連病院に増えていることが良い循環になっていると感じます。入局した若手がさらに後輩や学生の面倒をみる温かさが一番の魅力ではないかと思います。大学の役割である診療・研究・教育を滞りなく進めるとともに、一番大事な“人”を育てていくためにも、今の良い雰囲気を持続しつつ、さらに発展できるよう尽力してまいりたいと存じます。

諸先生方におかれましては、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

(福原 規子)



内堀 雄介 先生

〔血液内科〕

本年度より血液内科でお世話になっております、内堀 雄介と申します。2015年に東北大学医学部卒業後にNTT東日本関東病院で初期研修と引き続き血液内科で3年間専門研修を行い、その後、都立駒込病院で造血幹細胞移植の勉強を行い、この度入局させて頂きました。血液内科では非常に複雑な症例や診断が難しい症例も多く、大学病院でそのような患者様の診療を勉強させていただけることに非常に楽しみにしております。ご迷惑をおかけする事もあると思いますが、御指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い致します。



森 健太郎 先生

〔リウマチ膠原病内科〕

今年度よりリウマチ膠原病内科にて御指導いただいております、森健太郎と申します。宮城県仙台市出身です。2019年に東北大学卒業後、初期研修を含め3年間、岩手県立中央病院で勤務いたしました。初期研修を通じて総合的かつ全人的医療を実践できるリウマチ膠原病内科にやりがいを感じ、初期研修終了後、同院の腎臓・リウマチ科で内科専攻医として1年間診療に従事いたしました。多様な表現型を呈する膠原病の奥深さ、難しさを実感し、力不足を実感することも多々ありますが、リウマチ膠原病内科の先生方からの熱い御指導の下、大変充実した研修となっております。一日も早く皆様のお役に立てるように、精進して参ります。今後とも御指導御鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。



竹中 健太 先生

〔血液内科〕

本年度より血液内科でお世話になっております竹中健太と申します。

出身は岡山県岡山市で、東北大学を卒業した後に、地元の岡山市立市民病院での初期研修を経て、東北の人や仙台という街が大好きで、仙台に戻ってまいりました。もともと基礎修練の時分よりお世話になっており、先生方と一緒に仕事ができることを大変光栄に思っております。

まだまだ勉強不足で、日々力不足を痛感はしておりますが、患者様に恥じる事のないような医師になれるよう日々精進してまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。



高橋 秀典 先生

〔リウマチ膠原病内科〕

4月からお世話になっております。リウマチ膠原病内科の高橋秀典と申します。茨城県出身、新潟大学医学部を卒業、新潟市民病院にて初期研修、筑波大学附属病院のリウマチ・膠原病・アレルギー内科にて後期研修を修了、その後、土浦協同病院で5年間勤務しておりました。家族の事情により、本年、宮城県に転居し、勤務させていただいております。



趣味は海外旅行と教会など世界遺産巡りです。大学生の時にはUniversity of Pennsylvaniaの研究室(Pathology and Laboratory Medicine)で2か月間、実習をさせていただいた経験があります。共通点があったり、海外旅行が好きな方、そうでない方も気軽にお声がけいただけると嬉しいです。

宮城県のリウマチ膠原病診療に微力ながら貢献させていただきたいと存じます。ご指導、ご鞭撻を宜しく願い申し上げます。

中村 嘉詞 先生

〔血液内科〕

4月より血液内科学分野に入局致しました、中村嘉詞と申します。今年で医師4年目となり、昨年度までの3年間は大崎市民病院で研修をさせて頂きました。



前病院とは患者層もがらっと変わりaggressive lymphomaや移植患者を担当させて頂く事も多く、複雑な病態かつ大変な症例と向き合う中で日々緊張を感じるとともに充実した日々を過ごしています。

まだまだ未熟なためご迷惑をかけてしまう事も多いですが、一人前の血液内科医となるべく今後とも日々研鑽を積む所存です。どうぞ宜しくお願い致します。

小松 弘香 先生

〔血液内科〕

4月から血液内科に入局いたしました、小松弘香と申します。令和元年に東北大学を卒業し、仙台市立病院で2年間初期研修医として勤務し、本年度から血液内科でお世話になっております。学生の頃から尊敬する血液内科の先生方と一緒に働けること、大変光栄に感じております。まだまだ医師としては未熟者ですが、日々多くのことを吸収し、臨床に生かせるように励んでいきたいと思っております。今後ともご指導、ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



渡邊 樹也 先生

〔血液内科〕

4月より血液内科に入局しました、医師3年目の渡邊樹也と申します。

新潟県新潟市出身で、大学は東北大学に入学しました。大学卒業後は大崎市民病院で2年間初期研修をさせていただきました。

移植など研修医時代に経験できなかった症例が大学には多く、血液内科ならではのダイナミックな側面を経験させていただいております。同時に学ぶことも多いですが、先生方から症例ベースでご指導いただき充実した日々を送らせていただいております。一人前の血液内科医になれるよう精一杯努力していきますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いたします。



鳴海 善洋 先生

〔血液内科〕

今年度から東北大学血液内科に入局しました、後期研修医1年目の鳴海善洋と申します。令和2年に東北大学を卒業し、仙台医療センターで初期研修を修了しました。そこで血液内科の奥深さに



触れるとともに治療の難しさを実感しました。過去の歴史を顧みると、血液内科は現代の分子標的薬をリードしてきた分野と考えられます。血液腫瘍をはじめとした悪性腫瘍の根治もしくは共存は課題であるとともに悲願であり、激変し日々進歩する医療の中で、血液内科の果たす役割は今後も大きいと思われま。治療に難渋する事も多い診療科の一つですが、やりがいも大きく血液内科医を志すようになりました。日々の診療を通じて研鑽し精進していきたいと考えております。御指導・御鞭撻のほどよろしくお願いたします。

片倉 世雄 先生

〔リウマチ膠原病内科〕

今年度よりリウマチ膠原病内科に入局いたしました、片倉世雄（かたくらときお）と申します。2020年に東北大学医学部を卒業後、仙台オープン病院で2年間の初期研修を積み、この度皆様の一



員として末席に名を連ねさせて頂きます。学生の頃より憧れの念を懐きながら拝見させていただいたこのニュースレターに、自分も自己紹介文を添えることとなり、心が高鳴るとともに身が引き締まる思いであります。あらゆるライフステージの患者様に寄り添い、病の根治だけでなくより良い生活の質を追求する当科の姿勢に心惹かれ、学生時代からよそ見することなくまっすぐ戻って参りました。呼吸、循環、消化と生命に直結する診療科での研修を主軸として参りましたので、サイトカイン等が絡み合う複雑な病態やいわゆる“飛び道具”的な治療薬への理解が未だ乏しく、日々悪戦苦闘しております。多大なるご迷惑をおかけすることと思われまますが、誠心誠意診療に取り組む所存でありますので、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願申し上げます。

大間 美津江 さん

〔移植コーディネーター〕

5月よりHCTC（移植コーディネーター）として入局させていただきました。先輩方に教えて頂きながら日々新しい事を経験させていただいております。前職は当院リハビリテーション部にてりハ医の先生方、療法士の先生方に大変お世話になりました。私は山形で生まれ、神奈川で育ち、東北の震災以降は広島、千葉と移動が多く、宮城での生活は2年が経ちました。不慣れな為、業務も仙台での生活もご指導の程よろしくお願いたします。

千葉 幸世 さん

〔移植コーディネーター〕

6月より地域拠点病院事業担当の事務補佐員として入局いたしました千葉幸世と申します。前職は民間企業で経理・総務を担当しておりました。以前には当院の臨床研究推進センターで、臨床研究の事務補佐員として6年ほど勤務しておりましたが、出産、育児でのブランクもありますので、気持ち新たに業務に取り組んでまいります。医局での業務は初めての為、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、一日も早く業務に慣れ、お役に立てるよう精一杯努めてまいります。ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いたします。

二階堂 舞香 さん

〔大学院修士課程〕

今年度より、血液内科学分野の修士課程に進学しました二階堂舞香と申します。生まれも育ちも仙台です。東北大学医学部保健学科検査技術科学専攻を卒業しており、昨年度の卒業研究からこちらの研究室に配属しています。研究を行う傍ら、クリニックの臨床検査技師としても勤務しております。これからの2年間で多くのことを学ぶとともに、自身の研究が僅かでも血液分野の発展に貢献できるよう尽力してまいります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。



学会報告

第 66 回日本リウマチ学会総会

2022年4月25日から27日にパシフィコ横浜とハイブリッドで開催された第66回日本リウマチ学会総会にて、当科からはシンポジウム1題、口演3題の演題発表を行いました。

- 石井 智徳 先生
[S11-3] ANCA 関連血管炎
- 白井 剛志 先生
[W5-3] 高安動脈炎における生物学的製剤の長期的有効性と継続率の検討
[W72-4] 抗 MDA5 抗体陽性皮膚筋炎に対するトファシニブ、血漿交換、リツキシマブを併用した高強度寛解導入療法の治療成績
- 岡崎 創司 先生
[W74-3] 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症におけるメボリズマブの有効性の検討
また内科専攻医2年目の森 健太郎先生が、前赴任先の岩手県立中央病院から下記演題を発表しました。

- 森 健太郎 先生
[P48-8] ANCA 関連血管炎に対するリツキシマブの寛解導入および維持療法の効果

過去2年間はWeb開催のみでしたが、今回は久しぶりに現地参加し演題発表を行いました。ポスター発表がオンラインのみとなったこともあるのか、医師の参加は多くなく、製薬企業の方の参加が相対的に多い印象でした。来年は福岡で開催予定ですが、より多くの演題を出し、当科や関連病院からの発信を行えることを期待したいと思います。

(白井 剛志)

第 44 回日本造血・免疫細胞療法学会総会

第44回日本造血・免疫細胞療法学会総会は日本造血細胞移植学会から名称変更して最初の総会となりました。学会名から「移植」がなくなり「免疫細胞療法」が新たに追加されことを反映してか、学会のシンポジウムはCAR-Tからスタートしました。今回は現地とWEBのハイブリッド開催で、私は現地から参加させて頂き久しぶりにお会いする先生と挨拶を交わすことができました。Restroomの前でも近況報告など話が弾みそうで、お互いに「こんな場所でも」と笑う場面がありました。一方で満席に近い新幹線や人混みの横浜駅ではWEB参加によるアクセスの簡便さを再認識しました。小野寺先生(GVHD予防のMTXに対するロイコボリンレスキュー有無の比較)と田中先生(MDS-EB移植前の化学療法有無の比較)はWEBから口演発表を、市川先生(フサリウム症合併例の臍帯血移植)、道又先生(CML-BCへの移植成績)、諸田先生(結膜の急性GVHD)はポスター発表を、大西は看護シンポジウムでCAR-Tに関する発表を行いました。横山

先生はCMVと移植後再発の関係についての教育講演を担当されました。本学からも多くの情報発信を行うことができた学会でした。学会2日目には会長の高橋聡先生がAsano Memorial Lectureで東大医科研での臍帯血移植の歴史を紹介され、最終日には前理事長の岡本真一郎先生から「次世代の造血細胞移植医につたえたいこと」という特別メッセージのセッションがありました。今、病棟で当たり前のように行われている「移植」の基礎を築かれた先輩方の熱い思いが伝わる講演でした。現在、造血・免疫細胞療法の領域において、世界では1000を超える臨床試験が進行中とのことで、我々が触れているCAR-Tは氷山の一角に過ぎません。今後も新しいアプローチが次々と登場することが予想され、まさに次世代型移植医、免疫細胞療法医の育成が求められる時代です。今年は宮城県の認定医が大幅に増える可能性があります。また、次の名古屋が楽しみです。

(大西 康)



第44回日本造血・免疫細胞療法学会 総会

44th JSTCT Annual Meeting (JSTCT2022) Japanese Society for Transplantation and Cellular Therapy

English	Japanese
HOME	>
ご挨拶	>
開催概要	>
プログラム	>
演題募集	>
採択演題一覧	>
JSTCT2022 若手優秀研究賞	>
ポスター発表データ 作成について	>
参加登録	>
参加者のご案内	>



2022 5.12(木)-14(土)

会場 パシフィコ横浜「ノース」

会長 高橋 聡

ハイブリッド開催(現地とWEB併用)

【オンデマンド配信】

2022年5月30日(月) 正午~6月20日(月)

特別演題、教育講演、教育セミナー(予定)

Transplant, Cell Therapy, and Beyond

細胞療法、その先へ



学会報告（続き）

医学生・研修医の日本内科学会ことはじめ 2022 京都

今年も有志の学生、研修医から「内科学会ことはじめ」での発表希望があり、血液内科からは医学部6年生1名と初期研修医1名の計2名が発表を行いました。

- 血液④ 演題番号 219 木村 秀 君（指導：市川）
「白血病化を伴わず高度髄液浸潤にて発症したT細胞性リンパ芽球性白血病リンパ腫の一例」
- 血液⑤ 演題番号 222 市村 裕菜 先生（指導：市川）
「全身エリテマトーデスの経過中に重篤な肝障害を伴うマクロファージ活性化症候群から高度低形成骨髄を呈した一例」

今年は現地開催の設定もあったのですが、COVID-19 蔓延状況が読めない状況のため、オンラインでの参加となりました。二人とも症例の疾患・病態について勉強、文献考察を深く行い、試行錯誤を繰り返した結果、とても中身の濃縮した発表スライドを完成させていました。当日は、オンライン学会発表ならではの難しさもある中、二人とも堂々と発表しており、質疑応答も立派なものでした。市村先生は優秀演題賞を受賞することが出来、木村君は惜しくも受賞を逃しましたものの、他の演題に決して劣らない素晴らしい発表でした。お二人には今回の経験を活かして、今後も学会発表や症例報告を頑張っていってもらえればと思います。

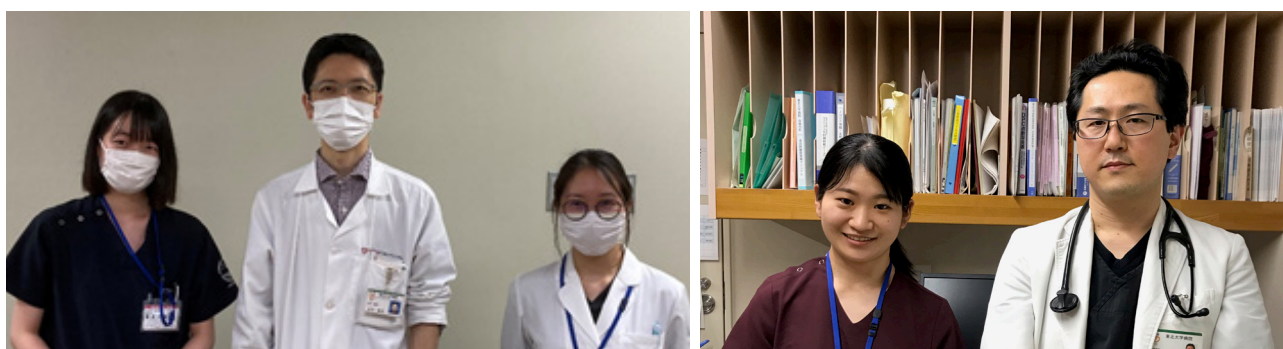
（市川 聡）

リウマチ膠原病内科からは医学部6年生の3名が発表を行いました。

- アレルギー・膠原病⑥ 演題番号 291 清原 万智 さん（指導：白井）
「肥厚性硬膜炎にて再燃した好酸球性多発血管炎性肉芽腫症の一例」
- アレルギー・膠原病⑦ 演題番号 293 伊東 納野 さん（指導：白井）
「IgA腎症を合併した腎動脈狭窄を伴う高安動脈炎の一例」
- アレルギー・膠原病⑦ 演題番号 294 石井 佳恵 さん（指導：白井）
「トシリズマブを導入した高安動脈炎における大腸炎発症の検討」

今年は現地発表ができるかとポスターの用意もしていましたが、完全オンライン発表となり、Webにてスライド発表と質疑応答を行いました。初期研修医の発表も多い中、3名とも非常にしっかりとしたプレゼンテーションが行えました。各セッションで優秀演題賞が1名選ばれますが、⑥では清原さんが、⑦では石井さんが優秀演題賞を受賞しました。今年度も特注の聴診器が副賞として贈呈いただけるようです。⑦に当科から2演題が入ってしまい逃しましたが、伊東さんも優秀演題賞に匹敵する発表であったと思います。なお、発表内容はいずれも英文誌に出版となり、3名とも非常に頑張りました。

（白井 剛志）



医学生・研修医の日本内科学会

ことはじめ 2022 京都



人事異動

2022年4月の当科及び関連病院の人事異動についてお知らせ致します。

【診療科役職】

	診療科長	医局長	病棟医長	外来医長
血液内科	張替 秀郎	福原 規子	市川 聡	小野寺 晃一
リウマチ膠原病内科	藤井 博司		白井 剛志	佐藤 紘子

【転入・採用】

高橋 秀典 先生	土浦協同病院 リウマチ・膠原病内科 → リウマチ膠原病内科 医員
内堀 雄介 先生	東京都立駒込病院 血液内科 → 血液内科 医員 (大学院生)
櫻井 一貴 先生	仙台医療センター 血液内科 → 血液内科 医員 (大学院生, 専攻医3年目)
橋本 和貴 先生	石巻赤十字病院 血液内科 → 血液内科 医員 (専攻医3年目)
高橋 美岐 先生	東北労災病院 リウマチ科 → リウマチ膠原病内科 大学院生
高橋 幹弘 先生	大崎市民病院 リウマチ科 → リウマチ膠原病内科 医員 (専攻医3年目)
中村 嘉詞 先生	大崎市民病院 血液内科 → 血液内科 医員 (専攻医2年目)
森 健太郎 先生	岩手県立中央病院 腎臓・リウマチ科 → リウマチ膠原病内科 医員 (専攻医2年目)
小松 弘香 先生	仙台市立病院 初期研修医 → 血液内科 医員 (専攻医1年目)
渡邊 樹也 先生	大崎市民病院 初期研修医 → 血液内科 医員 (専攻医1年目)
竹中 健太 先生	岡山市立病院 初期研修医 → 血液内科 医員 (専攻医1年目)
鳴海 善洋 先生	仙台医療センター 初期研修医 → 血液内科 医員 (専攻医1年目)
片倉 世雄 先生	仙台オープン病院 初期研修医 → リウマチ膠原病内科 医員 (専攻医1年目)
二階堂 舞香 さん	大学院生修士課程 入学
大間 美津江 さん	移植コーディネーター 入職 (5月～)
千葉 幸世 さん	移植コーディネーター 入職 (6月～)

【転出】

小野 浩弥 先生	血液内科 医員 → 仙台市立病院 血液内科
大地 哲朗 先生	大学院生 → 大崎市民病院 血液内科
渡邊 正太郎 先生	大学院生 → 山形大学医学部 第三内科
井樋 創 先生	大学院生 → 地域医療支援助教
丹野 唯人 先生	リウマチ膠原病内科 医員 → 東北労災病院 リウマチ科
諸田 直哉 先生	血液内科 医員 → 仙台医療センター 血液内科
木葉 大地 先生	血液内科 医員 → 大崎市民病院 血液内科
成田 衛 先生	リウマチ膠原病内科 医員 → 大崎市民病院 リウマチ科
秋澤 友里 さん	移植コーディネーター 退職 (～5月)

【外部・関連病院】

玉手 英一 先生	美里町立南郷病院 院長 → 美里町立南郷病院 非常勤医師
菅原 知広 先生	栗原市立若柳病院 院長 → 美里町立南郷病院 院長
斎藤 陽 先生	仙台市立病院 血液内科 → 宮城県立がんセンター 血液内科
大橋 圭一 先生	大崎市民病院 血液内科 → 石巻赤十字病院 血液内科
氷室 真仁 先生	山形大学医学部 第三内科 → ひむろ内科・血液内科 (開業)

2022年3月～2022年5月の当科の業績を紹介致します。

1. Ono K, Fujiwara T, Saito K, Nishizawa H, Takahashi N, Suzuki C, Ochi T, Kato H, Ishii Y, Onodera K, Ichikawa S, Fukuhara N, Onishi Y, Yokoyama H, Yamada R, Nakamura Y, Igarashi K, Harigae H. Congenital sideroblastic anemia model due to ALAS2 mutation is susceptible to ferroptosis. *Sci Rep.* 2022 May 30;12(1):9024. doi: 10.1038/s41598-022-12940-9. PMID: 35637209
2. Onishi Y, Onodera K, Fukuhara N, Kato H, Ichikawa S, Fujiwara T, Yokoyama H, Yamada-Fujiwara M, Harigae H. Unrelated cord blood transplantation for adult-onset EBV-associated T-cell and NK-cell lymphoproliferative disorders. *Int J Hematol.* 2022 Mar 10. doi: 10.1007/s12185-022-03313-z. Online ahead of print. PMID: 35274195
3. Saito K, Ichikawa S, Ohtomo R, Hatta S, Katsuoka Y, Harigae H, Izumi T. Severe platelet transfusion refractoriness due to anti-HPA-5a antibody during induction chemotherapy for acute promyelocytic leukemia. *Ann Hematol.* 2022 May 25. doi: 10.1007/s00277-022-04875-y. Online ahead of print. PMID: 35612605
4. Ishii K, Shirai T, Kakuta Y, Machiyama T, Sato H, Ishii T, Harigae H, Fujii H. Development of severe colitis in Takayasu arteritis treated with tocilizumab. *Clin Rheumatol.* 2022 Jun;41(6):1911-1918. doi: 10.1007/s10067-022-06108-z. Epub 2022 Feb 21.
5. Kiyohara M, Shirai T, Nishiyama S, Sato H, Fujii H, Ishii T, Harigae H. Hypertrophic Pachymeningitis Development in Eosinophilic Granulomatosis with Polyangiitis at Relapse of Disease: A Case-Based Review. *Tohoku J Exp Med.* 2022 Mar;256(3):241-247. doi: 10.1620/tjem.256.241. PMID: 35321968
6. Sasaki K, Fujiwara T, Ochi T, Ono K, Kato H, Onodera K, Ichikawa S, Fukuhara N, Onishi Y, Yokoyama H, Miyata T, Harigae H. TM5614, an Inhibitor of Plasminogen Activator Inhibitor-1, Exerts an Antitumor Effect on Chronic Myeloid Leukemia. *Tohoku J Exp Med.* 2022 Apr 28. doi: 10.1620/tjem.2022.J036. Online ahead of print. PMID: 35491124
7. Shirai T, Suzuki J, Kuniyoshi S, Tanno Y, Fujii H. Granulomatosis with Polyangiitis Following Pfizer-BioNTech COVID-19 Vaccination. *Mod Rheumatol Case Rep.* 2022 Mar 4;rxac016. doi: 10.1093/mrcr/rxac016. Online ahead of print. PMID: 35246689
8. Kawajiri A, Kawase T, Tanaka H, Fukuda T, Mukae J, Ozawa Y, Eto T, Uchida N, Mori T, Ashida T, Kondo T, Onizuka M, Ichinohe T, Atsuta Y, Morishima S, Kanda J; HLA Working Group of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation. Human leukocyte antigen (HLA) haplotype matching in unrelated single HLA allele mismatch bone marrow transplantation. *Bone Marrow Transplant.* 2022 Jan 21. doi: 10.1038/s41409-021-01552-y. Online ahead of print. PMID: 35058581
9. Fukuhara N, Suehiro Y, Kato H, Kusumoto S, Coronado C, Rappold E, Zhao W, Li J, Gilmartin A, Izutsu K. Parsaclisib in Japanese patients with relapsed or refractory B-cell lymphoma (CITADEL-111): A phase Ib study. *Cancer Sci.* 2022 May;113(5):1702-1711. doi: 10.1111/cas.15308. Epub 2022 Mar 15. PMID: 35201656
10. Yokoyama H, Kanaya M, Iemura T, Hirayama M, Yamasaki S, Kondo T, Uchida N, Takahashi S, Tanaka M, Onizuka M, Ozawa Y, Kozai Y, Eto T, Sugio Y, Hamamura A, Kawakita T, Aotsuka N, Takada S, Wake A, Kimura T, Ichinohe T, Atsuta Y, Yanada M, Morishima S. Improved outcomes of single-unit cord blood transplantation for acute myeloid leukemia by killer immunoglobulin-like receptor 2DL1-ligand mismatch. *Bone Marrow Transplant.* 2022 May 10. doi: 10.1038/s41409-022-01700-y. Online ahead of print. PMID: 35538140
11. Ishii T, Sato Y, Munakata Y, Kajiwara M, Takahashi Y, van Hoogstraten H, Xu C, Kato N, Takahashi T. Pharmacokinetics, Pharmacodynamics and Safety of Single-Dose Subcutaneous Sarilumab With or Without Methotrexate in Japanese Patients with Rheumatoid Arthritis: Two Single-Dose Studies. *Mod Rheumatol.* 2022 Apr 21;roac036. doi: 10.1093/mr/roac036. Online ahead of print.
12. Nishimura JI, Usuki K, Ramos J, Ichikawa S, Buri M, Kiialainen A, Sostelly A, Peffault de Latour R, Paz-Priel I, Röth A. Crovalimab for treatment of patients with paroxysmal nocturnal haemoglobinuria and complement C5 polymorphism: Subanalysis of the phase 1/2 COMPOSER study. *Br J Haematol.* 2022 May 24. doi: 10.1111/bjh.18274. Online ahead of print. PMID: 35608260
13. Kiyohara M, Shirai T, Nishiyama S, Sato H, Fujii H, Ishii T, Harigae H. Hypertrophic Pachymeningitis Development in Eosinophilic Granulomatosis with Polyangiitis at Relapse of Disease: A Case-Based Review. *Tohoku J Exp Med.* 2022 Mar;256(3):241-247. doi: 10.1620/tjem.256.241. PMID: 35321968
14. Murayama K, Kiguchi T, Izutsu K, Kameoka Y, Hidaka M, Kato H, Rai S, Kuroda J, Ishizawa K, Ichikawa S, Ando K, Ogura M, Fukushima K, Terui Y. Bendamustine plus rituximab in Japanese patients with relapsed or refractory diffuse large B-cell lymphoma. *Ann Hematol.* 2022 May;101(5):979-989. doi: 10.1007/s00277-022-04801-2. Epub 2022 Mar 4. PMID: 35244756
15. Handa H, Cheong JW, Onishi Y, Iida H, Kobayashi Y, Kim HJ, Chiou TJ, Izutsu K, Tsukurov O, Zhou X, Faessel H, Yuan Y, Sedarati F, Faller DV, Kimura A, Wu SJ. Pevonedistat in East Asian patients with acute myeloid leukemia or myelodysplastic syndromes: a phase 1/1b study to evaluate safety, pharmacokinetics and activity as a single agent and in combination with azacitidine. *J Hematol Oncol.* 2022 May 11;15(1):56. doi: 10.1186/s13045-022-01264-w. PMID: 35545778
16. Yamamoto M, Sato M, Onishi Y, Sasahara Y, Sano H, Masuko M, Nakamae H, Matsuoka KI, Ara T, Washio K, Onizuka M, Watanabe K, Takahashi Y, Hirakawa T, Nishio M, Sakashita C, Kobayashi T, Sawada A, Ichinohe T, Fukuda T, Hashii Y, Atsuta Y, Arai A. Registry data analysis of hematopoietic stem cell transplantation on systemic chronic active Epstein-Barr virus infection patients in Japan. *Am J Hematol.* 2022 Jun 1;97(6):780-790. doi: 10.1002/ajh.26544. Epub 2022 Mar 30. PMID: 35312194
17. Sekiguchi N, Rai S, Munakata W, Suzuki K, Handa H, Shibayama H, Endo T, Terui Y, Iwaki N, Fukuhara N, Tatetsu H, Iida S, Ishikawa T, Iguchi D, Izutsu K. Two-year outcomes of tirabrutinib monotherapy in Waldenström's macroglobulinemia. *Cancer Sci.* 2022 Mar 25. doi: 10.1111/cas.15344. Online ahead of print. PMID: 35332633
18. Kanda J, Hirabayashi S, Yokoyama H, Kawase T, Tanaka H, Uchida N, Taniguchi S, Takahashi S, Onizuka M, Tanaka M, Sugio Y, Eto T, Kanda Y, Kimura T, Ichinohe T, Atsuta Y, Morishima S; JSTCT HLA Working Group. Effect of multiple HLA-locus mismatches on outcomes after single cord blood transplantation. *Transplant Cell Ther.* 2022 May 13;S2666-6367(22)01273-8. doi: 10.1016/j.jctct.2022.05.005. Online ahead of print. PMID: 35577322

